

# ぶんぱくのあり方に関する提言書 (案)

2025 年（令和 7 年）10 月

ぶんぱくあり方検討会

# 目 次

|               |       |   |
|---------------|-------|---|
| はじめに          | ．．．．． | 1 |
| 1 基本理念について    | ．．．．． | 2 |
| 2 基本理念の実現のために | ．．．．． | 3 |
| 3 今後のぶんぱくに向けて | ．．．．． | 8 |

## はじめに

ぶんぱく（明石市立文化博物館）は、平成 3 年（1991 年）に開館しました。開館時は直営による運営を行っていましたが、現在は、指定管理者制度を導入して運営を行っています。

開館から、34 年が経過し、施設の老朽化をはじめ、運営体制のあり方や専門職の人材育成、また、増え続ける博物館資料の保存や整理などさまざまな課題が生じています。

そのようななか、ぶんぱくあり方検討会は、ぶんぱくの果たすべき役割はなにか、今後、ぶんぱくはどうあるべきなのか、などに関して、明石市より検討を付託されました。この依頼に応えるため、本検討会では、さまざまな角度より検討と議論を行い、ここに提言書としてまとめます。

この間の委員をはじめとする、関係各位の熱心な取組に対し、厚く御礼を申し上げますとともに、この検討の成果が今後の明石市の施策に反映されることを強く願います。

2025 年（令和 7 年）10 月

ぶんぱくあり方検討会

会長 藤野 一夫

# Ⅰ 基本理念について

ぶんぱくあり方検討会では、ぶんぱくの基本理念を考えるにあたり、はじめに、ぶんぱくがどのような思いで建設されたのかを確認しました。建設当時の資料や当時ぶんぱくで働いていた職員からの聞き取りによると、当時、明石市では「文化」を人の営み全般と広く捉えていました。そして、ぶんぱくは、本市の文化財に関する調査・研究をする場、それらを保存・公開する場、また、市民の文化創造の活動、発表の場として設立されたことがわかりました。

次に、現在、ぶんぱくで働く人や市民が、ぶんぱくにどうあって欲しいのか、その思いを知るため、「職員意見交換会」「市民ワークショップ」を開催し、意見を聴きました。そこでは、ぶんぱくには、「あかしの文化と歴史を守り、伝える博物館」であってほしいという思い、「市民による歴史や自然の学びの拠点」「博物館を通じていろんな人のつながりが生まれる」など博物館本来の役割やまちの魅力を高めるための役割を求める声がありました。

加えて、「あかしSDGs推進計画（明石市第6次長期総合計画）」や「明石文化芸術基本計画」、「明石市文化財保存活用地域計画」等の市の計画で、ぶんぱくがどのように位置づけられているかを確認しました。そこでは、ぶんぱくの役割として、地域の伝統文化を守り、継承し、活用する取組や地域の文化資源に親しみ、わがまちへの愛着を深める取組を推進するとともに、子どもたちに、文化芸術の鑑賞機会を創出し、参加・体験できる事業を推進することで、次世代の育成を図ることが求められていることがわかりました。

以上のことを踏まえ、ぶんぱくの基本理念を

**“明石の「文化と歴史」の拠点 市民をつなぐ博物館”**

とし、提言します。

## 2 基本理念の実現のために

上記の基本理念を実現するためには、ぶんぱくが「博物館として必要な固有の機能を持つ」ことは言うまでもなく、「明石市の博物館ならではの役割を果たしていく」ことが求められています。

当検討会では、「市民ワークショップ」や「来館者アンケート」など市民の声も聞きしながら、ぶんぱくのあるべき方向性として4つの基本方針を取りまとめ、また、それに基づく提言を記します。

### 基本方針Ⅰ 博物館としての固有の機能の強化

博物館の基本的な活動である、資料の収集・整理・保存・調査・研究・展示・教育普及（コミュニケーション）を、だれにでもやさしい博物館としての視点で、安定的・継続的に行うこと。

#### 主な取組

#### (1) 博物館活動を安定的・継続的に行うための運営体制の見直し

- ・博物館全体(博物館活動と建物、予算関係、職員の指揮命令)に統一的な指揮命令系統(館長などの執行部)が機能する体制を確立させること。
- ・20～30年程度の長期、かつ、柔軟な人材登用が可能な運営体制が必要である。
- ・ぶんぱくに求められている機能・役割を市全体で担えるよう検討していくこと。
- ・現段階では、非公募による市外郭団体の長期指定管理による運営が望ましい。

#### (2) 専門性を支える人材の確保と育成

- ・博物館を長期的視点で継続的に考える立場の正規職員を採用・育成し、博物館の専門性の維持を図ること。外部からの人材確保も必要である。
- ・職員が長期間ぶんぱくで研究活動・博物館活動ができる体制(育成、研究環境)を整えること。
- ・デジタル人材、エデュケーター、コーディネーター、アーキビスト、広報などの専門職員は天文科学館なども必要としている。共有すべき人材の確保を検討すること。

#### (3) 博物館収蔵品の一元的な管理体制と収蔵機能の確保

- ・資料収集・保管に関する方針を策定し、それに基づいた現状把握や将来予測を行い、必要な体制を整備すること。
- ・公文書や図書館の所蔵資料を含む市全体の資料収集・保管に関する方針を持ち、それに基づき、各所で必要な資料を保管する体制が望ましい。

- ・資料収集・保管に関する方針の作成や体制整備には、外部の専門家の支援を受けることも考えられる。

#### (4) 博物館活動に必要なスペースの確保

- ・様々な使命と役割を果たすには、館内スペースが不足しているため、機能と役割に優先順位をつけ、館内に収まらない機能はほかの施設で対応するよう、地域全体を見据えた総合的な博物館構想が必要である。
- ・施設の老朽化対策や長期的な施設運用を検討すること。

#### (5) 「登録博物館」への移行

- ・法律等に基づく登録博物館として運営できる体制と仕組みを整えること。
- ・重要文化財などの公開承認施設、科学研究費受給機関を見据えた登録博物館としての活動に取り組むこと。

## 基本方針 2 明石の文化と歴史を後世に伝える

明石の文化と歴史を後世に伝えるため、資料を確実に保存するとともに、調査研究活動を充実すること。

また、展示や教育活動を通じて文化と歴史の価値を継承していくこと。

### 主な取組

#### (1) 多様な人々の興味をかきたてる多彩な企画の立案

- ・明石の文化と歴史を後世に伝えるには、多様な人々に興味を持ってもらう必要がある。興味を持ってもらうための展示と、来館者数を増やすための展示は異なるので、活動の目的と内容を明確にすること。
- ・博物館は、「興味を持ってもらえる」「実際に博物館を使ってもらえる」ことが大切なので、五感への刺激から興味関心を惹きたて、探求心を育て、好奇心をかき立てる内容を取り入れること。

#### (2) 博物館活動を一人でも多くの人に届ける

- ・市内各所で、ミニ展示や資料検索コーナーの設置、大画面での博物館活動の紹介など、様々な方法で目的に沿ったぶんぱくの情報を届け、市民の認知を高めること。
- ・ぶんぱくが「文化と歴史を伝える拠点」「文化と歴史のアーカイブ拠点」として調査研究に取り組むとともに、他の施設と連携し、博物館活動の広がりを持つ仕組みを構築すること。
- ・ぶんぱくのファンの声を運営に取り入れる仕組みを構築すること。

#### (3) 博物館の収蔵資料の現状調査と整理、方針策定、情報登録、デジタル化と公開

- ・収蔵資料の現状調査と整理を実施し、資料収集の方針を整えること。その際、外部サービスや外部資金の活用も検討すること。
- ・歴史を後世に伝えるため、市の資料を所有する部署・機関と連携し、確実に関係資料を保存し、デジタル化と公開に取り組むこと。

#### (参考) 市民・来館者の声

伝統産業の歴史は、今調査しないと残らない（市民）

明石城のことをもっと知りたい（来館者）

わかりやすい、やさしい言葉や方法で展示してほしい（来館者）

中高生や若い世代の来館者が少ない（来館者集計より）

出張展示や資料の貸出はないですか（市民）

ぶんぱくに行かないとどんな資料があるかわからない（市民）

## 基本方針 3 明石の文化の発信と醸成

明石の文化をはじめ、多様な文化を発信し、新たな文化を醸成することで、明石への愛着と誇りを育むこと。

### 主な取組

#### (1) 博物館活動や多様な文化への理解を広げるプログラムの実施

- ・一貫性と戦略を持った博物館活動の計画を持ち、活動を進めること。
- ・博物館活動に参加した人たちがその後も博物館と関わりを持つことができる仕組みを構築すること。
- ・市民の様々な関心や声が共存し、自由に意見を表現できる場を提供すること。

#### (2) 市内企業等とのコラボ・連携

- ・市内企業・団体の紹介や関連展示、場所の提供などを行い、市民と企業等とが将来につながる関係の構築を検討すること。
- ・企業・団体との関係構築には一定のルールを定めたうえで、柔軟な活動が可能な形にすること。

#### (3) 市民の創作・研究成果の発表への支援

- ・展示設備を持つ様々な施設と連携して、市内の展示環境・展示機能を充実させること。
- ・教育機関との連携により、児童・生徒の創作・研究活動に貢献すること。

#### (参考) 市民・来館者の声

- 子どもと一緒に楽しくアートを楽しみたい（来館者）
- 近くで素晴らしい芸術作品が観られてうれしいです（来館者）
- 高校生や大学生の作品をもっと見てみたい（来館者）
- 来館記念になるグッズがあるといい（来館者）
- 明石発の産業や企業を紹介してほしい（市民）
- 私の作品をちょっと見てもらえる場所が明石にはない（市民）



## 基本方針4 市民をつなぐ

「文化と歴史」の拠点として、これまで出会わなかった人々が出会い、学び合い、交流する場となることにより市民の文化的な豊かさを育むこと。

### 主な取組

#### (1) 市民が博物館の運営に関わることができる仕組みの構築

- ・市民と博物館をつなぐには経験や専門知識が必要なので、外部人材の力を借りながら、市民と博物館をつなぐコーディネーターを育成すること。
- ・有識者やぶんぱくのファンに加えて、ぶんぱくと関わりを持っていない人の意見を聞き、運営に取り入れる仕組みを構築すること。

#### (2) 博物館体験プログラムの充実

- ・何を目的として実施するのか、どういうファンを育てたいのか、それがどのような将来につながるのかという戦略を持って実施すること。

#### (3) くつろぎ・交流・キッズスペースの整備

- ・新たな要素を加えるには、館内スペースの整理・再編が必要である。
- ・くつろぎ・交流・キッズスペースが博物館と明石の発展や改善にどうつながるのか、館内で共通認識を持ち、設置目的、ターゲット、成果指標などを明確にして設置すること。

#### (参考) 市民・来館者の声

博物館が好き。博物館で何か活動をしたい（市民）

博物館でゆっくり過ごしたい（市民）

博物館好きな人とつながりたい（市民）

ぶんぱくのファンをもっと増やしたい（ぶんぱく）

子どもが博物館でできることはないですか（市民）

### 3 今後のぶんぱくに向けて

今回、ぶんぱくのあり方検討会では、今まで明確に示されていなかった基本理念や基本方針、そして主な取組について提言としてまとめました。

もちろん、この提言のすべてを一気に進めていくことは、ぶんぱくの限られた施設規模や体制の問題、市の財政状況など、現実的な課題もあることは推察するところですが、この提言をガイドラインとして、さらに行政内部での検討を重ねていただき具体的な取組が進むことを期待しています。

また、検討会でぶんぱくのあり方を議論するなかで、明石の歴史・文化芸術の継承や醸成はぶんぱくだけで考えるのではなく、図書館、市民会館、天文科学館との連携や、他の公共施設あるいは民間施設も巻き込んだ、いわば「まちごとミュージアム」という大きな構想についての議論も必要であると感じました。

今後、そのような検討を深める場が設置され、活発な議論が展開されることを願っています。

#### ぶんぱくあり方検討会の概要

##### 1 委員

|    |        |                                   |
|----|--------|-----------------------------------|
| 委員 | 浅田 統子  | 公募市民                              |
| 委員 | 河合 健次  | 公募市民                              |
| 委員 | 五月女 賢司 | 大阪国際大学国際教養学部国際観光学科准教授             |
| 委員 | 佐久間 大輔 | 大阪市立自然史博物館学芸課長                    |
| 委員 | 染川 香澄  | ハNZ・オン プランニング 代表                  |
| 会長 | 藤野 一夫  | 神戸大学大学院名誉教授・<br>芸術文化観光専門職大学名誉教授   |
| 委員 | 吉成 信夫  | 東海国立大学機構参与・<br>明石市本のまちづくり推進アドバイザー |

(敬称略・50音順)

## 2 検討の経緯

### (1) ぶんぱくあり方検討会

|   | 開催日                 | 内容                                                     |
|---|---------------------|--------------------------------------------------------|
| 1 | 2024 年 8 月 16 日(金)  | 情報提供（ぶんぱくの現状と課題ほか）<br>文化政策・博物館・文化施設に関するミニレクチャー<br>意見交換 |
| 2 | 2024 年 12 月 13 日(金) | 進捗報告（職員意見交換会）<br>意見聴取（ぶんぱくのビジョン・方向性、市民ワークショップ）         |
| 3 | 2025 年 2 月 24 日(月)  | ぶんぱくのビジョン・方向性の検討                                       |
| 4 | 2025 年 7 月 4 日(金)   | ぶんぱくのビジョン・方向性の検討                                       |
| 5 | 2025 年 10 月 10 日(金) | 提言案の検討                                                 |

### (2) 職員ヒヤリング

| 実施日                                      | 対象者                        | 人数   |
|------------------------------------------|----------------------------|------|
| 2024 年 10 月 11 日<br>(金)～11 月 14 日<br>(木) | 関係機関（明石市立天文科学館、明石文化国際創生財団） | 3 人  |
|                                          | 元職員（開館時に在籍した職員）            | 3 人  |
|                                          | 元職員（これまで在籍した職員）            | 3 人  |
|                                          | 現在ぶんぱく内で執務している職員           | 16 人 |

### (3) 職員意見交換会

| 開催日                 | 参加者                                                           |
|---------------------|---------------------------------------------------------------|
| 2024 年 11 月 25 日(月) | ぶんぱく職員 15 人（市 7 人、指定管理者 8 人）                                  |
|                     | ファシリテーター：源由理子氏（明治大学教授）<br>佐久間大輔氏（大阪市立自然史博物館学芸課長・ぶんぱくあり方検討会委員） |

### (4) 市民ワークショップ

| 開催日               | 参加者                                       |
|-------------------|-------------------------------------------|
| 2025 年 2 月 2 日(日) | 市民 19 人<br>ぶんぱく職員 5 人    ぶんぱくあり方検討会委員 4 人 |
|                   | ファシリテーター：市民とつながる課                         |